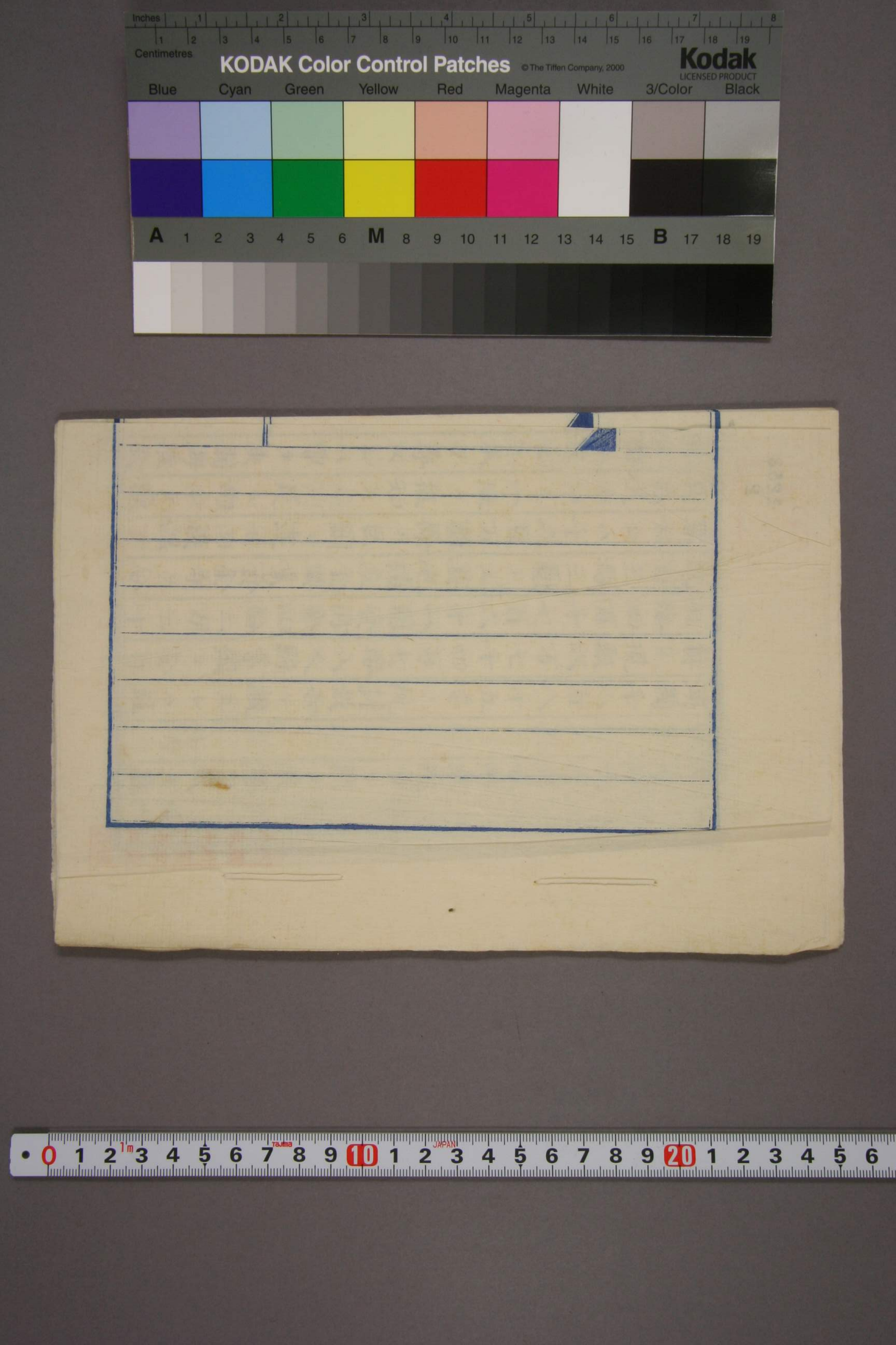
KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black

114
A 1253
2

大正十一年四月
大蹟俱樂部寄贈

抑モ官吏共濟社ハ方今歐洲各國ニ行ハレ就中獨逸澳西達利亞阿蘭陀等ニ於テ其勢力最モ盛ナリ

澳國千八百八十五年ノ統計報告ニ徵スレハ社員ノ現數六万七千四百七拾八人貯蓄預リ金百七拾四万千七百六十一圓貸附金四拾三万三千六百三拾三圓トス其他積立金興業資金等ヲ合算スレハ千六百万圓餘ノ巨額ニ達セリ復以テ其盛大ナルノ一班ヲ推知スルニ足ル而シテ該社ノ由テ起ルノ本ヲ尋ヌレハ曾テ英國海陸兵

丁共濟社ニ淵源シ尓来種々ノ沿革ヲ経テ今日ノ一大規模ヲ成スニ至レリ某談社ノ組織方法ヲ按スルニ各國大同小異ニシテ又其間軒輊ヲ分ツナシト雖モ其寂モ完備ナルハ獨澳二國ヲ推ス蓋獨澳二國各政府ノ官吏共濟社ニ於ケル保護ノ法備ハラサルハナク又奬勵ノ道至ラサルナキヲ以テナリ而シテ其談社ヲ保惠スルノ厚キハ本ト國家ノ公事ト名譽トヲ重スルノ至意ニ出ツ今其特惠ヲ與フルノ方法一二ヲ擧ケンニ曰皇帝皇后両陛下並皇族ヨリ寄附金ヲ下賜セラルヽ事曰談社ト社員トノ間ニ於ケル送金為替料並郵便賃無税ノ事曰談社用ノ為メ人ヲ地方ヘ派遣セシヤル場合ニ於テ官有私設ヲ問ハス汽船又ハ鉄道會社ト取結ヒタル特約ニ因リ切符ヲ受取リ無賃ニテ乗船若クハ乗車スルヲ得ル事曰談社ノ資金ハ手数料ヲ要セスシテ國立銀行ヲシテ之ヲ管理セシムルヲ得ル事曰政府内閣ニ於テ官吏ノ事並土地家屋ノ事ニ関スル法律規則ヲ草定スルニ當リ先ツ談社ヲシテ其利

害得失ニ就キテ意見ヲ具陳スルヲ得セシムル
等是ナリ凡ソ政事ノ特典ハ獨澳二國ノ事務統
計ニ明示スル所ニシテ今日現ニ行ハルヽ所ノ
モノナリ
佛蘭西ニ於テハ故ガンベッタ内閣ノ時ニ際シ
政府政種ノ如キ會社ニ對スル保護案ヲ提出シ
テ議院ノ同意ヲ求メタリ伊達利ニ於テハ政種
ノ如キ會社ハ政府公力ヲ以テ之ヲ維持セサル
ヘカラスト議決シ其保護金ハ同國郵遞局貯金
預リ金純益十分ノ二ヲ以テ之ニ補給セリ

阿蘭陀ニ於テハ澳國ノ制ニ倣ヒ創設シタルモ
ノニシテ其組織全ク獨立ノ経濟ヲ営ムニ在リ
ト雖モ政府ハ該社ノ利益ヲ保證シ其上ニ郵便
並為替料及供地料等無税タルヲ得セシム又獨
逸ニ在リテハ宰相「ビスマルク」熱心ニ之カ特別
保護案ヲ商議シ遂ニ澳國前商務大臣ノ説ニ從
ヒ多ク已レノ意見ヲ修正シ之ヲ實行スルヲ得
タリ蓋「シュフレー」ノ説ニ據レハ政種ノ如キ會
社ハ最初創立ノ際又ハ本社負擔ノ義務ヲ履行
スルニ足ルヘキ積立金ノ準備成ルニ至ルマテ

ハ政府ニ對シテ若干貸下ケ金ヲ請求スルヲ得ルナリ斯ノ如ク各國政府其趣向ヲ一ニシテ濟民ノ業ヲ保衛セン丁ヲ務ムルニ至レリ

支レ官吏共濟社ノ執ルヘキ業務ハ主トシテ經濟ト慈善ノ方法トヲ質行スルニ在リ是誠ニ人文教化旺盛ノ國ニ於テ樂善利濟ノ業ニ係ル別冊獨逸現行官吏共濟社規約第一章ニ載スル貯蓄、貸付、技助、恩給補助並生命保險及雜報刊行ノ如キ業務ノ種類ニ據リ其義自ラ判然タリ其他官吏子弟ノ教育又依托物品販賣ノ業ヲ兼又官吏子弟ノ教育トハ本社興業費ヲ以テ職業學校ヲ設ケ其學科ヲ研修セシムルヲ謂フ近時世人皆設ク國家富實ヲ致スノ基礎ハ盛ニ職業學校ヲ興シ人民ノ子弟ヲシテ自治自營ノ道ヲ知ラシムルニ在リト又依托物品販賣ノ業ハ他ノ各種ノ會社ト特約ヲ結ヒ社員ニ限リ其需用ニ應シ一割若クハ一割五分ノ抵價ヲ以テ日用必需ノ物品ヲ購買スルヲ得セシムルナリ其故ハ官吏俸給ノ額一定シテ動カス而シテ世上ノ物價ハ常ニ変換シテ止マス物價或ハ非常ニ騰貴シ

之カ為ニ有司存活ノ本ヲ失フノ憂アルト一ハ物品販賣競爭ノ弊害アルヲ察シ之ヲ防制セムカ為メナリ

且云フ何國ヲ問ハス官吏ハ免角經濟ニ注意セサルノ弊アリ故ニ國家豫メ非常ノ災變ヲ慮リ恩給ノ特例ヲ設ク然レトモ其恩給タル極テ少額ナルヲ以テ國家恩給ヲ設クルノ趣意ニ恒フニ足ラス然ラハ則今之カ增額ヲ圖ラン乎民論忽チ紛起シ議院ノ爭擾ヲ釀スノ恐アリ故ニ政府ハ可成的穩和ヲ主トシ務メテ民議ヲ避ケ且毫モ民力ニ藉ラスシテ其趣意ヲ貫徹スヘキ使法ヲ求メ恩給額ノ定準ニ據リ有司ヲシテ奉職中得ル所ノ俸給四分ノ一若クハ五分ノ一ヲ貯蓄セシム故ニ之ヲ貯蓄スルハ有司ノ義務ナリトス然レトモ現時獨澳等ヲ初トシ行フ所ノ貯蓄方法ハ率ネ二種ニ屈分ス一ヲ例規ノ預ケ金トシ一ヲ隨意ノ預ケ金トス例規ノ預ケ金トハ社員ヲシテ規約ニ載セタル一定ノ金額ヲ毎期若クハ毎月ニ預ケシムルヲ謂フ隨意ノ預ケ金ハ金額ノ多少ニ拘ハラス本人ノ隨意ニ任カスヲ

謂フナリ

又該社ノ上等役員ハ名譽員ニシテ多クハ官吏ヲシテ之ヲ兼務セシムル故ニ本社ノ経費ハ至テ少額ニシテ其事務ノ能ク整頓スルヿ他ノ私立會社ノ如キ比ニアラス但シ諸役員ニ與フル慰労又ハ報酬金並編輯及書記會計員等ニ給與スヘキ俸給其他一切ノ経費ハ雜報販賣代價並本社ノ資産ヨリ得ル純益金ノ内ヲ以テ之ヲ支辨ス

会該社ノ計算報告ヲ閲スルニ本社ノ貸付金利子ノ割合ハ獨逸ニテハ五分以下手数料二朱五毛濠國ニテハ六分ニ超過セサラシム是世人ノ満足スル所ヲ程度トシ規定スルモノナリ而シテ貯蓄資金純益ノ分配ハ平均七分乃至一割ニ及フ阿蘭陀ニテハ一割ニ至ルヲ常トス之ニ加フルニ依托物品販賣ノ方法ニ因テ社員ヲシテ善良ノ質アリテ且抵廣ナル物品ヲ購買スルヿヲ得セシム斯ノ如キ数多ノ利益アリ而シテ其確實且便利ナルヿ世上ノ銀行ニ比スルニ遥ニ優レリトス是該社ノ益々朝野臣民ノ信用ヲ得

テ比年社員ノ増加事務擴張シテ前途尚ホ甚樂ムヘキ進歩ヲ呈スルニ至ルヘキ望アル所以ナリ

之ヲ要スルニ各國官吏共濟社創立以来ノ成績歩々觀ルヘキモノアリ有司存活次第ニ豊裕トナルニ隨ヒ氣宇又次第ニ高尚トナリ急公好義ノ吏風成リ隨テ官吏ノ運命益々開発シテ止マサルニ至ルヘシ

右ハ歐洲官吏共濟社實況ノ概略ナリ其詳細ニ至テハ他日ヲ待テ論述スル所アラントス

明治廿一年十一月　某

朕有司ノ具奏ニ因リ千八百七十八年十二月十一日査閲ノ規約ニ基キ伯林ニ於テ獨逸官吏共濟社創立ノ舉ヲ欲シ自今該社ニ法人タルノ權利ヲ許與ス

伯林千八百七十九年一月十五日

御名

奉勅

總理大臣

内務大臣

司法大臣

獨逸官吏共濟社規約

第一章　社名、位置及目的

第一條　本社ハ獨逸官吏共濟社ト稱シ帝都伯林ニ設置シ社員一般ノ德義ヲ鼓勵シ福利ヲ增進セシムルヲ以テ目的トス

本社ノ事務ヲ分ツテ左ノ五種トス

第一　蓄積及貸借金ノ方法ヲ設クル事

第二　扶助金ノ方法ヲ設クル事

第三　恩給補助金ノ方法ヲ設クル事
第四　生命保險ノ方法ヲ立ツル事
第五　新報ヲ発行スル事

第二章　職域

第二條　本社ノ職域ハ全獨逸帝國ニ及フ而シテ該規約ニ基キ帝國内何レノ地方ヲ問ハズ分社ヲ設立スルコトヲ得

第三章　財産及資金

第三條

第一節　蓄積及賃付資金ハ左記ノ種類ヨリ成立ス

甲　社員ノ預ケ金
乙　本社ノ準備金
丙　入社金及臨時費金
丁　事務年度ノ内ニテ収入スル一切ノ利得金
戊　新報賣却代價ヨリ得ル収益金
己　社員總會ノ決議ニ因リ臨時ニ設

クル特別資金

庚　本社ノ貸金

第二節　扶助金ノ方法ハ後第五十三條ニ從ヒ設クル所ノ扶助資金ヲ以テスルヲ例トス

第三節　恩給補助金ノ成立スル方法ハ左ノ如シ

第一　第二十九條ニ掲ゲタル事務經費ヲ除クノ外ノ支出スベキ資金

第二　特ニ恩給補助金ニ充ツルヲ目的トシテ官廳又ハ社員ノ永世若クハ一時寄附贈與ニ係ル金額

第三　諸種ノ資本財産ヨリ生スル利得金

第四　社員總會ノ決議ニ因リ承諾スル臨時恩給補助金

第五　第七十條ニ依リ設備スベキ根當資金

第四節　生命保險金ノ成立ハ左ノ諸種ニ依ル

第一　生命保險補助金

第二　諸種ノ資本財産ヨリ生ズル利得金

第三　特ニ生命保險金ノ支出ニ充ル流用資金

第四章　社員

第四條　本社ノ通常社員タルヲ得ル者ハ獨逸帝國一般又ハ各聯邦政府ニ奉仕スル官吏在職非職ヲ問ハズ及議會ノ議員並ニ民吏ニ限ル

第五條　通常社員ハ蓄積及貸借法ヲ恪遵スベキ義務アリ而シテ恩給補助及生命保險法ニ藉ルハ其有スル所ノ權利ナリ

第五章　入社金ノ事

第六條　何レノ官吏ヲ問ハズ入社セムトスル者ハ入社金トシテ三「マルク」五十「フェニヒ」ヲ出スベシ

第六章　事務管理ノ事

第七條　事務管理ノ為メ須要ナル事項ヲ擧クルイ左ノ如シ

第一　上等社員ヲ設クル事

第二　上等社員ノ組織及其權利義務ノ事
第三　社務監督ノ事
第四　利得金分配ノ事
第五　預ケ金帳簿ノ事
第六　預ケ金還付ノ事
第七　本社私債ノ事
第八　貸付金ノ事
第九　抵當物件ノ事
第十　負債ノ利子及其償還ノ事
第十一　准備金ノ事

第八條　社員タルノ權利ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

第一　死亡
第二　依願退社
第三　退社

第九條　監督權保證ノ為ニ常時又ハ臨時ニ監督委員ヲ命スルハ政府ノ職權ニ屬ス

監督委員ハ上等社員及總會ノ議事ニ參班シ且平時本社ノ會計及他ノ事務ヲ監督視察スルノ權利ヲ有ス

第四　分社事務ノ事

第五　中央本社ノ會計吏ノ身元保証金ノ事

第六　事務経費ノ事

第七章　總會ノ事

第一　總會ノ議事ヲ分ツテ二種トス

甲　通常議事

乙　特別議事

第八章　准備金ノ事

第九章　本社機関ノ事

第十條　本社ハ獨逸官吏共濟社新報ト題スル新聞ヲ発行ス

第十一條　新報ノ目的ハ百般學術ノ進歩ヲ略論シテ経濟致治學ノ勃興ヲ促カシ又社員ノ友誼親睦ヲ敦フシ且忠君愛國ノ吏風ヲ養成セシムコトヲ期スルニ在リ

但シ時政ノ得失及宗教ノ善惡ヲ論ズルハ該

新報ノ務メテ避クベキ所ナリ

第十章　蓄積及貸借金ノ事

第一節　目的

第十二條　蓄積及貸借ノ目的ハ社員ノ倹德ヲ奬励シ又其方法ニ依テ生ズル社員ノ利得ノ分配シテ益々多カラシメ又ハ抵當ヲ出スニ於テハ本社例規ノ許ス限リハ社員ニ利子ヲ付シテ一定ノ資金ノ全額又ハ其幾分ノ貸付ヲ為スニ在リ

凡ソ社員ハ何人ヲ論ゼズ其居住屋内郵便局ノ郵送ニ因リ新報ヲ購讀スルノ義務アリトス

第二節　預ケ金ノ事

第十三條　通常ノ社員ハ規定ノ額面ニ達スル迄ハ月々若干ヨリ少ナカラザル預ケ金ヲ為スベキ義務アリトス

但其規定ノ額ニ超過スル預ケ金元ニ元金ヨリ生ズル利潤ハ社員隨意ノ蓄積金ト看做スベシ

第十一章　扶助金ノ事

第十二章　恩給補助金ノ事

第一節　目的

第二節　事務管理

第十三章　生命保險ノ事

第一節　目的

第十四章　事務報告及事務年度ノ事

第十五章　本社ノ存廢及其規約變更ノ事

第十四條　本社ノ存廢及其規約ノ制定變更ニ關スル重大ノ事項ハ勅許ヲ得テ施行スルモノトス